

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「新米巫女と幽霊の初恋」

テーマ：「毒舌で強情なのに、臆病で恥ずかしがり屋な美少女」

キャラクター

40

ストーリー

35

テーマ(設定)

50

文章力

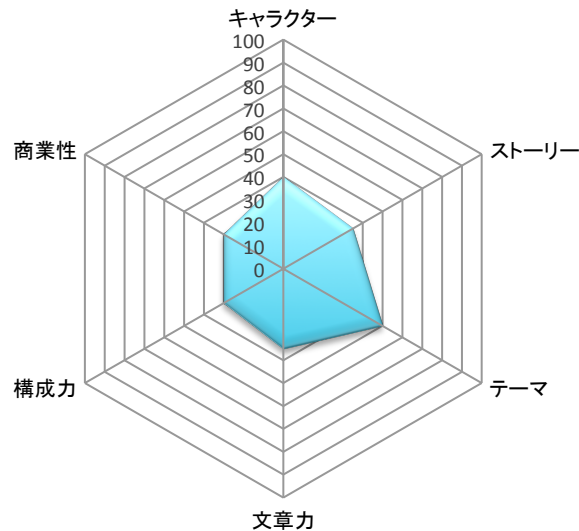
35

構成力

30

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・2万字という文字数の制限のデメリットをもろに受けてしまったような印象。キミコやミコトの行動や心情変化にかなり無理があるように感じられる。恐らくまだ他に出したかった設定やエピソードがあるように思える。しかし限られた枠組みの中で「どのエピソードを捨て、どのエピソードどう短くまとめて出せば読者にとって面白い作品になるか」という「設定を絞る」作業は、長編執筆時にも必ず必要となってくる。現在作者様にはとりあえず面白いと思ったものは入れてみようという、漫画の「おいしいと思うものは何でも鍋にいれてとんでもないカレーを作ってしまうヒロイン」に似た考え方があっても思われるため、まずこの絞るという点を意識してみればよいのではないかと感じた。これによりまっ間違いない執筆力は一気にあがる。

・キミカのキャラが悪い意味で少しキツイ。「臆病で恥ずかしがり屋なのに、毒舌な美少女」と、「毒舌なのに、臆病で恥ずかしがり屋な美少女」は全く異なる性質。前者は面白い個性になりやすいのに対し、後者はうざいキャラとして認識されやすく、キミカはどちらかといえば後者の性質。毒舌要素をオマケ程度にして、臆病で恥ずかしがりやという面を前にだし、もう少し美少女感を出せば面白くなるのではないか。

合計加点ポイント 0

総得点: 220 / 600

B方式総合得点: 8067 点